

上田せせらぎ保育園

令和2年度福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

令和3年3月

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none">・育てたい子どもの姿（いいあたま、やさしいところ、じょうぶなからだ、がまんづよいこ）・心の教育の充実・安全体制の確立・「家庭療育」の大切さ・「あそび、学び」の充実
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none">・一人ひとりが考えて行動する力・子ども、保護者ひとり一人の気持ちに寄添った関わり、対応・臨機応変に対応できる能力・役割（リーダー・係り）等の内容把握や能力発揮 <p>(2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>・子どもたちの命、大事な時期をお預かりしているという自覚と責任感を持ったうえでささいな事柄でも報告・連絡・相談をしっかりと、子どもに対して、保護者に対して、職員間のコミュニケーションをしっかりとる。</p>

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞って実施した。

調査方法

アンケート調査票の配付は園を通じて保護者へ手渡し、回収は、園に設置した回収箱への投函、および、保護者から評価機関に対する直接の郵送を併用した。

利用者総数

117

利用者家族総数(世帯)

96

共通評価項目による調査対象者数

96

共通評価項目による調査の有効回答者数

41

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

42.7

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」71%、「やや満足」20%、計%91という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

- ・質問における各回答の割合については、無回答は除いた。
- ・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	40	1	0	0
回答者の98%が「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	39	2	0	0
回答者の95%が「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	39	2	0	0
回答者の95%が「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	39	2	0	0
回答者の95%が「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	33	4	1	3
回答者の87%が「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	33	6	2	0
回答者の80%が「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	34	6	1	0
回答者の83%が「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	34	5	2	0
回答者の83%が「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	38	2	1	0
回答者の93%が「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	35	5	1	0
回答者の85%が「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	33	6	2	0
回答者の80%が「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	27	10	1	3
回答者の71%が「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	37	4	0	0
回答者の90%が「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	34	5	0	2
回答者の87%が「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	36	3	2	0
回答者の88%が「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	28	9	2	2
回答者の72%が「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	17	14	3	7
回答者の50%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当	
カテゴリ1の講評			
<p>理念や方針、「4つの約束」について職員間での共通理解を促進している</p> <p>新年度の体制が確定した年度末や、新年度の当初に、職員に対し基本方針を伝えている。ここでは、保育理念、保育方針、そして「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」から導き出した4つの約束などを中心に、職員全体での共有を図っている。また、職員会議の場を利用した園内研修を通して、こうした視点に基づく方向性の浸透を図っている。理念や方針、ビジョンなどは、一方的発信ではなく、可能な限り職員と顔を合わせて伝えるように努めている。</p> <p>実践や発信を通して「園の保育観・子ども観」の保護者との共有を図っている</p> <p>園の目指す保育、日々の保育の中で実践していくことなどは、ホームページでの発信、しおりなどの掲示、入園説明会での説明などを通して、保護者の理解を促進している。加えて、不定期で発行する園長だよりでは、園長自身の言葉で「園の保育観・子ども観」を発信している。なお、ホームページには保護者専用のページ(今日の出来事)を設け、日々の保育実践の様子を伝えている。</p> <p>決定と周知のプロセスを確立し運用している</p> <p>重要な案件については、法人の理事会で決定した事柄などは、法人本部による発信により組織内での周知徹底を図っている。当該決定の意図や背景、経緯などについては、なるべく早いタイミングで職員に周知している。保護者に対しては、必要に応じて手紙やメールの発信、ホームページへの掲載などにより、決定の内容・状況・経緯を伝えている。</p>			

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>課題抽出の前提となる情報の収集やニーズの分析を積み重ねている</p> <p>日々のコミュニケーションを通して、運営・保育に対する保護者の意向の把握に努めている。行事後に行うアンケートも活用している。職員については、会議や面談などを通して意向や意見を把握している。地域福祉の現状については、家庭支援センターや療育センターとの連携、日野市の要請を受けた緊急一歳児の受け入れなどの実践を通して情報の収集・ニーズの把握を行っている。業界の動向については、当法人の理事長が系列園のある町田市の保育園協会会長を務めているため、運営法人の園長会などを通して、情報を得ることが出来ている。</p> <p>今後の重点課題を中期計画に位置付けている</p> <p>今年度(2020年度)から2023年度までの期間の重点課題を掲げた中期計画を作成している。これにより、①安定した職員雇用、②保育の質の向上、③危機管理や安全管理の徹底、④施設整備の強化、⑤財務の安定化、⑥地域ニーズの把握などについて中期的に取り組んでいく方向性を示している。単年度の見通しは、事業の目的や理念、方針、目標、そして保育内容や職員育成、地域との連携などの取り組みを包括した全体的な計画を作成している。そして、事業推進のための必要な予算編成を行っている。</p> <p>理念やビジョンの実現に向けた業務の遂行体制を整えている</p> <p>キャリアパス制度を整備し、各職責を明確化することで、園の理念やビジョンの実現に向けた業務の遂行体制を整えている。職層を、園長、主任保育士、副主任保育士、専門リーダー、職種分野別リーダー、一般・初任者の5つの階層に分類し、求められる役割や責任、業務、知っておいてほしい専門知識・保育実践に必要な技術、求められる能力・取り組み姿勢などを具体的に設定している。これにより、業務の遂行を理念やビジョンの追求に結び付けている。</p>		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○ 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○ 非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>業務の遂行上職員が心得ておくべき事柄を明確化し浸透を図っている 法人組織の一員として遵守すべき各種規程類のほか、職員の組織人・福祉に従事する者としての責務や心構えを定めている(職員の心得)。これにより、園の保育・教育理念、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」から導き出した4つの約束、23項目にわたる保育の心得、業務の各場面における留意事項、保護者対応のポイントなどを明確化し、共通認識を図っている。また、研修では、保育の理念・方針、4つの約束について深く理解し、日々の実践の中で意識していけるよう取り組んでいる。</p> <p>苦情への真摯な対応、虐待防止への学びの促進などを図っている 保護者からの意見や要望、苦情に適切に対応していくため、苦情解決責任者(園長)、苦情受付責任者(主任)、そして第三者委員を設置している。そして、保護者や近隣の方から寄せられる苦情について、日時や状況、内容、その場での対応、園に対応というプロセスに則った解決を図っている。虐待防止への組織的な対応としては、対応の心構えや留意事項をまとめ(虐待防止マニュアル)ている。そして研修では人種差別問題に関する新聞記事を取り上げたりしながら個々の振り返りを行い、対応の向上を図っている。</p> <p>待機児童の受け入れなど、地域のニーズを踏まえた支援を行っている 一時預かり保育や園庭開放など、地域の子育て世帯の受け入れや交流機会の提供など、支援を行う体制を整えている。また、市の要請に応える形で、緊急1歳児枠の受け入れも実施し、待機児童対策に貢献している。地域のネットワークとしては、日野市の園長会、地域ネットワーク会議などに参画している。</p>		
カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当
カテゴリ4の講評		
<p>非常時に備えた体制を確立している</p> <p>危機管理や安全管理、衛生・保健、防犯などの各分野における対応について、主な担当者を配置し、予防と発生時の迅速かつ円滑な対応に備えている。危機管理については、危機における指示命令の系統を明確化し、地震や火災、風水害、事故などにおける的確な対応を図る手順を定め、それらの内容を確認している。地震や水害などに対しては事業継続計画も策定し、子どもの命を守る体制作りを行っている。職員の安全な帰宅もその確保を図っている(災害時における時差退社計画)。</p> <p>日々の安全の確保、暗線な施設環境の維持に取り組んでいる</p> <p>安全な施設運営を行っていくために、様々なリスクを踏まえた対応手順を定めている(各種マニュアル)。研修でも、救急救命や応急手当、嘔吐処理などについて学んでいる。日常的に起こりうる事故や事故に至らない事例(ヒヤリハット)については、①嘔みつき、②ひっかけ、擦り傷、④切り傷、⑤打撲、⑥異物、⑦鼻血、⑧その他などに分類して原因や部位、対処、記入者、保護者への報告者まで記録し、総括している。個々の事例については報告書を作成し、状況の確認、原因の分析、対応策の検討、適切な対処までの一貫した流れに沿って対応している。</p> <p>実用的なマニュアルを定め、個人情報の適切な管理を図っている</p> <p>法人・園として、子ども・保護者に関する個人情報の取り扱いについて、個人情報保護法などの趣旨に基づいて管理体制を定めている。特に個人情報保護マニュアルでは、文書ごとの取り扱いルールを定め、適切な管理や保管時の注意、事故予防策まで特定している。職員は秘密情報の在職中・退職後の保持について誓約書を法人理事長に提出し、また園としても「全国保育士倫理綱領」の趣旨を踏まえた守秘義務の確認を行っている。パソコンを利用した情報管理にはアクセス権限の設定などにより漏洩防止を図っている。</p>		
カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(00)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当
サブカテゴリー-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリー5の講評		
賃金改善を図る制度を活用して各自のキャリアアップを支援している 賃金改善を図る制度(処遇改善加算Ⅱ)を活用して、各分野の専門リーダーや職務分野別リーダーなどを配置するなど、キャリアパスの仕組みを構築し、職員の処遇改善と質の高い保育の展開に取り組んでいる。園長以下、主任保育士、副主任保育士・専門リーダー、職種分野別リーダーを位置づけている。様々な分野で経験と積みながら自身の力量の向上を図っていく仕組みを構築している。		
個々の成長を支援し、組織としての理念・方針の追求に結び付けている 複数の職員階層に応じて、求められる役割や責任、業務、知っておいてほしい専門知識・保育実践に必要な技術、求められる能力・取り組み姿勢を明確化している。そして、今年度はキャリアパスと連動した人材育成計画の一年目であることから、その周知を図るため制度の概要や職務分野別リーダーの責務と役割などについて職員との共通理解を図りながら進め、育成を図りつつ、組織として職員の成長の見通しの周知を図っている。		
研修による学びを組織の成長につなげている 年間研修計画を策定し、子どもの命を守るために優先的な救命救急、保育の不可欠の要素である人権や障害受容、成長の見通しとしてのキャリアアップなど、多様なテーマで学ぶ機会を設定している。また、オンライン研修の受講を含め、園の内外の研修を活用して個々の向上意欲に応え、研修の成果や日々の気づきは職員全体で共有し、組織としての向上につなげている。		

7 カテゴリー7	
事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
当園の開園から1年後に、運営法人による別の保育施設が開園し、当園から主任を含む数名の職員が異動した。また、年度末にも管理職層を含む数名の職員の退職があった。こうした事情を踏まえて組織の安定性の確立に向けて取り組みこととした。そこで、行事や保育内容、書類の見直しに着手し、系列園での取り組みを参考にしつつ取り組みを進めた。職員体制の変更や新型コロナウイルスの感染拡大という社会状況などもある中、一定程度基盤を作ることが出来た。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
職員体制の安定は、事業の継続性や安定性の基礎であり、保育の質の向上を図っていく上での前提である。異動や退職に加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応に迫られたことは、活用や取り組みに大きな制約があったことが容易に推察できる。今年度(令和2年度)の着実な取り組みから見て取れることは、そうした困難な状況の中でも、子どもの命を預かり、より良い保育を提供しようとする思いを持ち続けた職員の存在の大きさである。ここに、新たな職員体制と理念やビジョン、方針を軸に据えた事業推進が加わることで、今後に向けたより確かな道筋が描かれることになる。	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>不審者対応や安全点検、セキュリティーに対する見直しをその都度行い、管理体制の確立につなげることを目指し、各分野における留意事項た対応手順をマニュアルとして明確化した。そして、危険箇所などの確認を行い、少しずつ安全体制の確立を図り、こうした取り組みについて振り返りを行い、次年度(令和2年度)は、半期ごとに安全点検を行うこととした。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>子どもの命にかかわる安全管理への取り組みについては、体制作りの主な担当者の決定、各分野における対応手順の明確化など、大きな成果が見て取れる。終わりのない課題ではあるものの、地震や水害などに対しては事業継続計画も策定し、非常時において事業の継続性図っていく道筋をつけている。加えて、職員の安全の確保にも目を配り、安全な帰宅を確保しようとすることで、働く側の安心も図っている。上記の「基盤作り」とあわせて、今後の園の発展の礎となっていくものと思われる。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>園の情報をわかりやすく提供し利用希望者の選択に繋げている</p> <p>園のHP、パンフレット、行政の公式HP・広報誌を通し園の情報を公開している。園のHPでは本園の目的・保育理念・保育方針・保育の目標をはじめとし、園児たちの一日、年間行事、保護者ページを公開している。園紹介の動画をアップし、来園できなくても園の様子を見て頂ける内容になっている。併せて、活動内容や献立、子どもの様子等写真を掲載している。</p> <p>子育て中の保護者を応援する為の園の取り組みを紹介している</p> <p>園では子育て支援事業として、一時保育と子育て広場を展開している。一時保育たんぼ組では在園児以外の子どもを有料でお預かりし、在園児と一緒に遊びや製作を経験している。子育て広場は登録制とし、どんぐり広場は毎週火曜日に開催し絵本の読み聞かせ、手遊び、自由あそびを体験、誕生会にも参加している。園庭開放は毎週木曜日に開催している。</p> <p>園の見学は個別の状況に応じて実施している</p> <p>園の見学希望については電話での問い合わせを中心に主任が対応している。直接来園して見学を希望している利用希望者に関してはその方の状況に応じて相談しながら日程を調整して実施している。現在コロナ感染拡大防止の観点からコロナ対策を徹底して情報提供を行っている。園長は、今後園見学とは別に、入所を希望する家庭を対象に入所申請前説明会を実施し、園の保育方針、保育活動内容、保護者への協力依頼内容を相互で十分確認した上で、入所申請していただけるようにしていきたいと考えている。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>入園時の説明で園の概要やお願い事などを丁寧に説明し保護者の協力を得ている</p> <p>入園が決定した家庭には事前説明や面談を行い、入園のしおり(重要事項説明書)を保護者と読み合わせ、保育時間、保育料・諸費用、保育の内容、年間行事予定、個人情報の取り扱いについて、緊急について、相談・苦情の対応について、お願い等を説明し理解と同意を得、入園のしおりについての同意書に署名捺印していただき、併せて、オムツ処分についての同意書、個人情報保護誓約書、個人情報使用承諾書にも署名・捺印していただいている。子どもの写真の取扱いは年度初めに保護者に確認し同意書を提出、ビデオは保護者の了解のもと撮影している。</p> <p>子どもや保護者の情報を確実に入手し安心して園生活が始められるよう慣らし保育を実践</p> <p>入園前に児童票、入園児発育状況調査票、喫食状況確認表、健康カード・ノート、就労証明書、緊急及び警戒発令連絡カード等の書類を配布し、それらの内容をもとに保護者・子どもと面談を実施して保育に必要な個別事情や要望を把握するようにしている。入園時の環境変化に配慮して慣らし保育を行い、子どもの不安やストレスを軽減させ、慣らし保育期間中の子どもの様子は月案・日誌・発達記録に記載している。</p> <p>子どもや保護者が安心して新生活を送れるよう応援している</p> <p>卒園や退園の際には、保護者からの不安や相談に耳を傾けている。また、必要に応じて家庭支援センターや小学校等の行政機関にも連絡をとり、支援を行っている。不安が見られる園児には個別に声を掛けて関わりをもちながら不安の軽減に繋げている。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた支援方針作成・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
子ども一人ひとりの個別性や保護者の思いに寄り添う丁寧な保育を実践している 子ども一人ひとりの状況は入園時に提出していただく児童票・発育状況調査票・健康カード・喫食状況確認表等の中で、子どもの健康状態や予防接種、発達の状況、食事・排泄・睡眠・清潔・生活等の状況、食品調査やアレルギー、保護者の意向についても情報を収集している。日々の子どもの様子は各クラス日誌に記載し、2歳児までは毎月・3歳児以上は3か月毎の発達記録に纏めている。内科健診や毎月の身体測定結果は0歳児は健康カードに、1歳児以上は健康ノートに纏め身長体重曲線を参考に推移を把握している。		
保育計画を保護者と共有し、子どもの育ちを意識した関わりを実践している 年度末から次年度の全体的な計画の内容を決め、行事等も鑑み各クラスが1年を4期に分けた年間指導計画を基に、季節や行事等を考慮し発達に応じた月間指導計画・個人月案(2歳児まで・支援児・障害児の為の個人月案)を作成している。月案は子どもの様子や課題を整理し20日までに、週案は次週のリーダーが毎週金曜日朝までに主任に提出し園長が確認している。目標や計画は重要事項説明書で説明し毎月のクラス目標はクラス便りに記載して保護者に伝えている。		
子どもや保護者に関する情報を職員全員で共有している 児童票や月案、発達記録だけでなく、内容や状況に応じて必要書類を作成している。児童票は年度末または年度初めには一旦保護者に返却し内容を確認して最新情報を記入後再提出していただいている。園では職員会議・給食会議・離乳食会議を月1回、乳児部会・幼児部会は週1回、土曜保育ミーティングを週1回、各係の打ち合わせを必要に応じて行い職員会議で周知、毎日8:45からの朝礼で申し送り・引き継ぎを中心に、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有している。		

サブカテゴリ-5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている <input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている <input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-5の講評	
<p>個人情報に関する同意書で保護者の意向を確認、徹底して個人情報を管理している</p> <p>入園時に重要事項説明書の中で個人情報の取り扱いについて保護者に説明して個人情報保護誓約書で同意を得、子どもの名前や写真掲示、HP等への写真や映像の公開についても意向を確認している。園運営に関する書類については、出席簿・保育日誌(日中)は保育室の鍵付き引き出しに保管、その他全て事務室の鍵付書庫で保管しており職員は事務室で閲覧可能、終業後は施錠し園長が厳重管理している。</p> <p>保育実践の中で子どもの羞恥心や個性を大切に支援を実践している</p> <p>子ども一人ひとりの羞恥心に配慮した支援を実施。子どもに対して傷つくような言葉、口調は使わない、他の子どもの前で必要以上に叱らない、着替えの際には、カーテンや衝立で他からの視線を避ける等配慮している。友だちと関わることへの助言をしたり、仲立ちをしたり、友だちと過ごす喜びを味わえるよう援助していく中で、園児同士のトラブルが発生した際は一人ひとりの思いを受けとめて状況をよく把握した上で双方に話し、関わっている子どもの家庭に対してはクラス担任を中心に、必要に応じて主任や園長が対応している。</p> <p>保護者の子育てで観に寄り添い保育に反映、虐待防止を学び関係機関と連携している</p> <p>保護者の表情や仕草等小さなサインを見逃さず、保護者の子育ての不安や気がかりについても傾聴して育児困難や虐待防止への支援を実施している。子どもや保護者に対する「人権」について、疑問、反省、課題の事例が生じた場合、早急に職員間で話し合う時間を設けたり、虐待防止について園内研修で職員全員が学び合っている。虐待チェックシートも使い、気になる子どもに対しては園長が対応し情報を職員間で共有、必要に応じて行政や関係機関と連携している。</p>	

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ○ 非該当
サブカテゴリー6の講評	
法人作成の業務マニュアルで業務水準を定め、園の手順書で確実に業務を行っている 園は虐待防止・保健・個人情報・不審者対策・散歩・園外保育安全・危機管理マニュアル等を作成し、内容を明確化して保育実践に活かしている。加えて、消防署職員による指導から応急手当を学び、看護師からは嘔吐処理やエビベン使用方法等を学んでいる。マニュアルは基本的には年度末に見直しを行っている。現状に合わせて社会の動向を注視し、制度や省令の変更等を鑑みながら必要に応じて法人の理事長や姉妹園とも相談の上で見直しに取り組んでいる。	
保護者・職員の意見を反映させてサービス向上の為の業務改善に取り組んでいる 様々なマニュアルは事務所に常置しており、いつでも閲覧が可能となっており、保育実践でわからない事があれば先輩職員から気兼ねなく教えてもらえる体制が整っている。園では日常の保育業務や行事等について、保護者からの意見・要望、そして職員からの提案等を真摯に受けとめると同時に、子どもの様子から反省や改善を検討して見直している。主任・園長が中心となり保護者や職員との個別対応を積極的に行い、夫々の意見や提案を受け止めているが、園長は今後、副主任やリーダーにも業務水準の見直しに関わる環境作りを考えている。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	
		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(000000)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○ 非該当
評価項目1の講評			
<p>詳細な記録を活かして一人ひとりの状況を把握し職員全員で子どもの育ちを支援している</p> <p>新入園児は児童票・入園児発育状況調査票、個別面談で、進級児は保護者との日常的な対話や面談、子どもに関する記録を基に、発達の過程や生活環境を十分把握して保育計画や子どもへの接し方に繋いでいる。発達記録は、2歳児までは毎月、3歳児以上は3か月毎に作成し、生活(基本的な生活習慣)とあそび(健康・人間関係・環境・言語・表現)の各領域について、子どもの姿と指導上の留意点を詳細に記録している。職員全員が子どもの状況を申し送りやクラス毎の会議や職員会議等の中で必要な共有をし、子どもの育ちを支援している。</p> <p>生活やあそびの中で子どもが主体的に取り組める環境を整えている</p> <p>子どもが様々な事柄に関心を持てるよう関わっている。散歩での人との出会い、季節・自然を感じ、野菜や植物の栽培・収穫、カブト虫の飼育、クッキング、毎月の歌を口ずさみ、保育室を飾る作品作り、季節や日本の文化を意識した年間行事等様々な経験が積み重ねられている。年齢別保育を基本に行事ですべて保育、朝夕の合同保育、土曜保育、夏の縦割り保育を通して異年齢での活動も取り入れ大きい子への憧れや小さい子への慈しみの心が育まれている。2歳児はテーブルに自分のマークを貼付、主体的な関わりを実現する取り組みが展開されている。</p> <p>子ども一人ひとりの個性を大切に、気持ちに寄り添いながら育ちを見守っている</p> <p>発達に相応しい絵本やあそびが楽しめるよう玩具類は子どもの目線に整え、子どもが主役となり自由に遊べるようマット等を利用してコーナーを設置している。特別な配慮が必要な子どもは無理のない範囲でクラスの子どもと共に過ごし成長に繋げている。発達の過程で生じる心の行き違いによるけんかやかみつぎ・ひっかき・たたき等は、事故や怪我に繋がる前に夫々の子どもの気持ちを尊重して受け止め、わかりやすい言葉で伝え解決に導き、保護者に説明している。小学校とは訪問や保育要録作成等で連携している。</p>			
2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			
		評点(0000)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○ 非該当
評価項目2の講評			
<p>保護者との登園時対話を大切にして子どもの様子を把握し、その日の保育に繋いでいる</p> <p>登園時には保護者に前夜の様子等を伺い、子どもの顔つきや皮膚の張り、怪我、傷、湿疹等の異常がないか観察して変化があった場合には保護者に直接確認している。併せて、連絡帳は速やかに目を通し、食事・睡眠・排せつ等を確認して保育に反映している。</p> <p>家庭と園の連続性を大切に、基本的な生活習慣の習得に取り組んでいる</p> <p>園では保護者と連携しながら子どもの発達に合わせた基本的な生活習慣の自立に働きかけ、自信を持って生活できるように見守っている。明るい挨拶は登園時から保育を通して職員が手本を示し、手洗いは石鹸を使用し食事前・トイレ後・外あそび後・その他手が汚れた時に行っている。食事はいただきます等の挨拶や、発達に応じて手掴み、スプーン・フォーク、箸へと移行し、意欲を持って自分で食べる事を大切に、虫歯予防として2歳児までは食後にお茶を摂取、3歳児から歯みがきを実施している。</p> <p>状況に配慮した休息を提供、子ども一人ひとりの園生活を確実に伝えている</p> <p>午睡は年年齢や前日の睡眠、体調にも配慮しつつ午前寝を含めて時間帯や長さを設けるようにし、午睡チェックで安全に配慮している。お迎え時には、体調や怪我の内容だけでなく、伝達表を基に一日の様子を可能な範囲で伝えている。子どもの個人的な情報を伝える時には周囲の保護者の様子にも気を配り、時と場合をわきまえた対応を心掛けている。直接伝える事が難しい場合には、メモや連絡帳を活用したり、降園後家庭に「電話入れ」を行っている。保護者からの相談事等には担任だけでなく園長・主任も対応している。</p>			

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがまじりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○ 非該当
評価項目3の講評			
<p>子どもの自主性、自発性等の発揮を目指した計画、目標を保育実践に繋げている 子どもの自主性、自発性、積極性の発揮を目指した指導計画を作成し保育実践に繋げている。具体的な活動の計画は、年間指導計画を受け、月・週案に位置づけている。指導案に沿った設定保育を基本とし、適宜自由保育を提供、サークルやパーテーション、マットを設置することで、絵本、ブロック、ままごと、お絵描き、ぬり絵、折り紙等のあそびを存分に楽しんでいる。集団ゲームや運動会・発表会等の行事を通して子どもたちが楽しみながら集団生活に関わることができるよう環境を整えている。</p> <p>子どもの言語力、表現力等豊かな発達を楽しく体験し習得できるよう取り組んでいる 毎日の挨拶や感謝の言葉等は大人が見本となり美しい言葉を使い、行事前には絵本・紙芝居や季節・行事歌等楽しく言葉を理解している。毎月の歌を決めて朝の会等で歌い、手遊びも楽しんでいる。3歳児以上には外部講師による体育指導を実施している他、リズム体操、ダンスリトミック、季節や行事、他自由製作活動の中で子どもが自由に表現している。園庭では季節の花や野菜・果物を植えて育てる・収穫する・食べる体験を通して季節を感じている。今後は外部講師を招き、伝承あそびや自然あそびを豊かに展開していきたいと考えている。</p> <p>戸外や園外で伸び伸びと身体を動かし、自身の気持ちを調整できる保育を実践している 子どもの豊かな成長、発達には戸外、園外活動が必要と考え、年月齢に合わせて土や草花、虫等様々な自然に触れる散歩を中心に、夏のプール、2歳児以上のバスハイク、5歳児は公共交通機関利用等多彩に提供している。散歩先で虫と戯れ命の大切さを学び、咲いている草花を摘んで楽しんだり、図鑑で名前を調べる姿がある。子ども同士の関係性を大切にし、1歳児頃からは、「順番ね」「貸してね」「玩具は大切にね」等、子どもの気持ちを受けとめ、遊びの順番、玩具の譲り合い等を繰り返し伝え、自身の心の調整に繋げている。</p>			
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
<p>日本の伝統文化を伝え、良い思い出に繋がる季節感ある年間行事を実施している 伝統的な日本文化を伝え、良い思い出に残る年間行事が繰り返り広げられている。入園式で1年がスタート、2歳児以上のバスハイクはお弁当に仕立てた給食を頬張り、願いを込めた短冊を笹に飾る七夕誕生会、プール・水遊び、5歳児のお泊り保育、防災訓練、夕涼み会、運動会、芋ほり、遠足、サンタさん登場に大興奮のクリスマス誕生会、もちつき、豆まき、せせらぎフェスタ(発表会)、ひな祭り誕生会、卒園式で門出を祝い次年度への移行(進級)保育へ繋げている。発表会は1年の総纏め、子どもたちが成長を互いに確かめ合い保護者に伝えている。</p> <p>子どもが興味や関心を示しながら積極的に参加し、達成感を実感できる行事を行っている 行事前には子どもたちがイメージ出来るよう話や絵本、紙芝居、ペープサート、行事歌等で導入を行ったり、様々な選択肢を用意して、その中から子どもたちが皆で決める等して、ワクワク感を抱き主体性を持って取り組めるようにし、行事の謂れ等も伝え、行事食も楽しんでいる。園では行事に取り組む事で、「練習」が主とした保育にならないよう意識し、子どもたちが無理なく楽しんで取り組めるようにしている。さらに、季節の野菜・果物の栽培や、食べ比べ・おにぎり作り、デコレーション・野菜ちぎり等の食育活動も展開している。</p> <p>園の行事を理解し、子どもや職員と関わり、育ちを喜び合える行事を実施している 保護者に園の行事の取り組みを理解していただき子どもや職員と交流し、豊かな育ちを共有している。クラス懇談会や保育参観、引き渡し訓練、運動会、発表会等に誘い参加していただいている。運動会や発表会等は、事前のお便りやお知らせで演目の内容や見どころを家庭に伝え、行事に取り組む子どもの成長を確かめながら当日を楽しみにしていただいている。今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から保護者参加行事の開催を見合わせたり開催方法の変更を余儀なくされた。次年度の開催に期待をしたい。</p>			

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
<p>年齢や発達が違う子どもが互いに関わりながら安心して迎えを待てる環境を提供している</p> <p>園では、延長保育を指導計画に位置付け、安心できる保育の提供が行われている。朝、夕は合同保育を実施し、人数やメンバーによってプログラム構成に配慮してあそびを提供している。空腹は淋しさを招くことから補食・夕食を提供している。保育時間の長い子どもには特に休息を意識し、どの職員も個々の様子に合わせた関わりで子どもの安心に繋げている。日中使っている玩具以外の玩具や遊びも取り入れて特別感を味わいながら楽しんでいる。ゆったりとした雰囲気の中、年上児への憧れや年下児への慈しみの心が育まれている。</p>			
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○ 非該当
評価項目6の講評			
<p>食べる事に集中できるよう落ち着いた環境を提供している</p> <p>2歳児クラスまでは職員が側について食事に興味を持ち食べたくなるような声掛けをしている。子どもの発達に合ったテーブルと椅子を用意して、落ち着いた雰囲気の中で食事が進められるように環境を整えている。3歳児以上は、食材や栄養素にも興味を持たせて確認しながら、食べる時のマナーも大切にしながら、子どもたちが意識して楽しく食事できるようにしている。子どもたちの夫々のマークを確認して着席する等、決まった場所で安心して食べる事ができる環境を整えている。</p> <p>季節を感じるサイクルメニューで様々な食材に慣れ親しんでいる</p> <p>0歳児は人工栄養及び離乳食とおやつを、完了食を迎えた子どもには昼食とおやつを用意している。献立は季節を感じる食材を中心に取り入れたサイクルメニューを提供している。子どもは同じ食材でも味や見栄えが変わったりするだけでも初めての物として認識し警戒しがちになってしまう為、サイクルメニューで複数回目にしたり口にした匂いを嗅いだりする事で味や食材に慣れて安心して食べる姿が見られている。薄味を意識し、夏場は塩分を高くする等熱中症対策を講じている。</p> <p>様々な食育活動を通して食べる事に興味関心を持っている</p> <p>食物アレルギーのある子どもに対しては医師の指示に従い除去食を提供している。個別献立を作成し保護者が内容を確認して承諾印を押している。保育活動の中に季節の野菜や果物の栽培を取り入れ、食べ比べやおにぎり作り、デコレーション、野菜ちぎり等様々な食育活動を取り入れている。子どもたちが楽しみ、意欲的「食」について興味を持ち、苦手な食べ物を食べてみようとする気持ちが持てている。園では今後も給食室とクラス担任との意見交換の場を十分にとり、より楽しく様々な食育活動が出来るようにしていきたいと考えている。</p>			

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○ 非該当
評価項目7の講評			
<p>子どもが自分の健康や身の回りの安全への習慣が身につくよう保育の中で働きかけている</p> <p>子どもたちが自分から身を守る事への意識を高めるために戸外活動ではどんなことに気をつけなければならないか理解できるよう年齢毎に伝えている。散歩では手繋ぎ、車のよけ方、信号の見方・渡り方等を学び、公園では職員が出入口や遊具、不審者等をチェック、定期的な人数確認で安全に遊べる環境を提供している。看護師による健康教育は4、5歳児対象に「熱中症」、5歳児対象に「体」をイラストやカルタを使用して分かりやすく伝えている。毎月の避難訓練で有事の際の行動を身につけている。</p> <p>園内は快適な生活空間を維持して健康管理に努め、専門機関との連携を図っている</p> <p>保育室内は温度・湿度に配慮し、床暖房や加湿器を使用、2箇所以上を開放して実施する換気、玩具の消毒等快適な生活空間を整えている。併せて、手指消毒剤を各クラス1～3個、玄関、給食室入り口、トイレ、事務所に設置して使用を励行している。こまめな水分補給を実施し、夏場は食事で塩分不足にも配慮している。専門的な支援が必要な場合は専門的な機関を紹介、薬の預かりは原則していないが、やむを得ない個別の状況には園のルールに沿って与薬依頼書等の提出の上預かっている。</p> <p>子どもの健康を守るため保護者へ情報発信をして共有している</p> <p>園医による健診を0歳児は月1回、1歳児以上年2回、歯科検診を年2回実施。身体測定は毎月、頭囲・胸囲は年2回測定し、個別の健康カード・健康ノートに記録し、身長体重曲線も参考に保護者と育ちを共有している。保健だよりは毎月発行し、前月の園の様子、欠席状況、季節的な感染症症状や対処方法、乳幼児突然死症候群の危険、家庭内での事故等のトピックスを掲載している。SIDS予防として睡眠時の呼吸チェックを実施している。</p>			
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○ 非該当
評価項目8の講評			
<p>家庭の個々の事情を理解し受けとめ、柔軟な姿勢で家庭保育をバックアップしている</p> <p>保護者の生活習慣や価値観は様々であり、園では連絡帳や日々の対話、面談等で家庭での生活や保護者の価値観を理解し否定することなく子育てを支援している。18:01以降の保育を希望する場合は登録した上延長保育を利用していただくが、個々の就労や家庭の状況等にも配慮し急な残業等による延長保育にも対応している。17:30までの申し込みで18:31～19:00の利用は補食を、3日前までの申し込みで19:01～20:00の利用は夕食を夫々有料で提供している。食物アレルギーの場合は医師の指示書を基に除去食を用意している。</p> <p>「電話入れ」を新たに導入し、保護者と園が子どもを真ん中にした関わりを実施している</p> <p>例年クラス懇談会を年2回開催し、職員と保護者が顔を合わせてクラスの保育内容を伝え、保護者の交流の場として子育ての話題で発見や不安、悩み等を共有する場となっているが、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止としクラスだよりで情報を伝えている。保護者とは連絡帳や対話で子育てに関して共有しているが、送迎時に情報共有が難しい場合には帰園後に「電話入れ」を行い、家庭との情報共有に努めている。今年度企画していた保護者同士の交流の機会ははやむなく中止した。次年度は実施するための工夫に期待したい。</p>			

9 評価項目9		地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価		標準項目			
● あり ○ なし		1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○ 非該当	
● あり ○ なし		2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○ 非該当	
評価項目9の講評					
<p>戸外活動やバスハイク等の様々な体験を通して人や運動、自然に触れている</p> <p>園の近くには自然がいっぱいで散歩だけで季節が感じられる環境があり、天気の良い日には年年齢に応じてバギーや手繋ぎ歩行で出かけ、出会った方々とは「こんにちは」と自然な挨拶を交わしている。2歳児以上は法人運営の姉妹園との交流が充実。年2回のバスハイクを企画し、姉妹園や室内遊技場等に出かけている。バスハイクの日には給食を弁当作りに仕立てて特別感を演出している。例年では運動会や散歩・園外保育に地域の方を誘っている。</p> <p>地域交流の取り組みを通して地域の子どもとのかかわりがある</p> <p>地域のニーズにより、一時保育事業としてたんぼ組を開設、在園児以外の子どもを預かり在園児と一緒に遊んだり製作をして過ごしている。未就園児支援事業のどんぐり広場では子どもたちが誕生日にも参加、園庭開放では自由に遊んで頂いている。今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から地域との積極的な交流は見合わせてきた。今後とも、事態の動向を鑑みながら、今後園が地域に根差した存在となるよう様々な取り組んでいきたいと考えている。</p>					

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル①	処遇改善の制度を活用して職員の能力や保育の質の向上を図っている	
内容①	賃金改善を図る制度(処遇改善加算Ⅱ)を活用して、各分野の専門リーダーや職務分野別リーダーなどを配置するなど、キャリアパスの仕組みを構築し、職員の処遇改善に取り組んでいる。様々な分野で経験と積みながら自身の力量の向上を図っていく仕組みを構築している。また、キャリアパス制度の周知を図るため、概要や職務分野別リーダーの責務と役割などについて職員との共通理解を図りながら進め、育成を図りつつ、組織として職員の成長の見通しの周知を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル②	想定される様々な事態において的確な対応をとるための取り組みがある	
内容②	危機管理の各場面を想定して、予防と発生時の迅速かつ円滑な対応に備えている。指示命令の系統を明確化し、地震や火災、風水害、事故などにおける的確な対応手順を定めている。事業継続計画も策定し、子どもの命を守る体制作りを行いつつ、職員の安全確保の措置も取っている(災害時における時差退社計画)。日常的に起こりうる事故や怪我についても漏れなく記録し、状況の確認、原因の分析、対応策の検討、適切な対処までの一貫した流れに沿って対応している。より良い保育の前提となる安全な環境作りについて、物的・人的両面から取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-2-1	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている
タイトル③	実用的なマニュアルにより、個人情報の適切な管理を個々の職員が行いやすくしている	
内容③	個人情報の取り扱いについて、組織としての定めと個々人の振り返りの両機能を併せ持つマニュアルを作成している。文書ごとの取り扱いルールを定め、適切な管理や保管時の注意、事故予防策まで明確化している。児童票をはじめとする個人記録や地域の子育て世帯に関する情報、職員名簿、実習やボランティアの情報に至るまで、どこにどのように保管するのか、どこでの活用が許されるのか(例、事務室より持ち出し禁止など)、具体的に明示している。従って、このマニュアルは、情報の取り扱い方法を定めるとともに、チェックリスト的にも活用できる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	一貫した視点に基づく運営と、その中での職員の自主性・主体性の発揮を追求している
	内容	保育理念、保育方針、そして「幼児期の終わりまでに育てたい姿」から導き出した4つの約束などを中心に、職員全体での共有を図っている。また、理事長が職員会議に出席し、法人としての見解や保育情勢について講話を聴く機会を設けている。さらに、職員会議の場を利用した園内研修を通して、理念やビジョンなどの方向性の浸透を図っている。一方的発信ではなく、可能な限り職員と顔を合わせて伝え、職員自身の理解や納得に基づく自主性・主体性の発揮を支援している。
2	タイトル	子どもが安心して社会に向かえる「生きる基礎を培う保育」を目指し、身体・精神の発達に有意義な保育を展開している
	内容	子どもの確かな成長・豊かな発達を目指して取り組んでいる。目指す生活習慣（食事・排泄・睡眠・衣服着脱・清潔）の習得（自立）を目指し、生活の中で無理のない学びに繋げている。トイレトレーニングや着替え、個別のペースを大切に睡眠、給食・行事食、クッキングや野菜栽培などの食育、食事前やトイレ後の手洗い励行など、子ども自身が興味を示し「やりたい」と思う気持ちを大切に、確実な生活習慣習得に繋げている。専門講師を招いた特別カリキュラムによる身体的・精神的発達の援助などを含め、発達に有効な良質な様々な取り組みがある。
3	タイトル	今後の園の発展の道筋をつけた
	内容	開設から1～2年の間には、異動や退職に加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応に迫られるなど、運営上難しい舵取りを迫られてきた。こうした中で、保育の進め方や書類の見直しなどを進め、また危機管理の分野でも体制の構築を図ってきた。そして同時に、職員の成長の見通しを示すキャリアパス制度の効果的な運用に向けて取り組んできた。常に園として目指す視点を揺るがすことなく事業の軸に据え、運営体制の基盤作りに注力してきたことは、変化し行く社会情勢の中において、今後の園の発展の礎となるものと思われる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもが地域の中で育ち、楽しく豊かな経験を積んでいくための取り組みを具体化していく
	内容	開園3年目を迎え、地域に根差した園になるようその存在をアピールしている。天気の良い日には戸外活動に出かけ、目的の公園まで地域の方々と自然な挨拶を交わしている。今年度はコロナ禍の為に様々な交流行事が自粛となった。今までの活動を土台にして様々な人・場所・地域資源との繋がりを深める事を視野に入れながら、中学・高校への職場体験の受け入れや高齢者・障害者との交流、姉妹園・近隣他園との交流等を具体化し、子どもが地域に愛され豊かな経験に繋がる交流の機会を広げていくことを課題としている。
2	タイトル	子どもの健やかな成長、豊かな発達に繋がる保育の実践を保護者と共に支え、互いに喜び合える取り組みを進めていく
	内容	家庭と園が連携しながら子どもの24時間の生活リズムを重視し、保護者と日々対話しながら子どもの成長・発達や育児についての情報を提供し、保育の方向性を明らかにしている。保護者には園やクラスの目標や計画を重要事項説明書やクラス便り等で伝え、個人月案は前月の子どもの姿を確実に把握し次月に繋げている。今後は、ともに子育てを進めていく一歩を進めていくために、保護者に対し指導計画を開示していくことも、検討していくことを課題としている。
3	タイトル	危機管理の手順を職員一人ひとりに浸透させていく
	内容	危機管理について、行うべきことを洗い出し、各場面における対応手順や留意事項をマニュアルとして明確化した。事業継続計画の策定なども、この分野での顕著な取り組み事例と言える。こうした取り組み自体が成果と言えると同時に、今後の取り組みを深めていくスタートラインが出来たとも言える。今後は、定めた手順などをどのように職員に対して浸透させていくか、検討していくことを課題としている。